

平成25年度第3回北杜市図書館協議会会議録

- (1) 会議名：平成25年度第3回北杜市図書館協議会
 - (2) 開催日時：平成25年11月6日（水）午後1時30分～午後3時55分
 - (3) 開催場所：北杜市金田一春彦記念図書館 SVホール
 - (4) 出席者：協議委員 柴山 裕子／小澤 一／下條 順子／須田 由美子
齊木 久壽
事務局 藤森教育長・小林図書館長／篠原 美恵・長谷川 誠
小野 まどか（総務担当）／浅川 さつき（明野図書館）
鈴木 真由美（すたま森の図書館）／長屋 恵（たかね図書館）
細田 恵子（ながさか図書館）／高野 裕子（金田一春彦記念図書館）／進藤 由美子（小淵沢図書館）／齊木 紀恵子（ライブラリーはくしゅう）／小池 法子（むかわ図書館）
 - (5) 議題：
 - (1) ブックスタート事業について
 - (2) 北杜市図書館開館時間等について
 - (3) 利用者懇談会について
 - (4) 「やまね便り」について
 - (5) 平成26年度当初予算について
 - (6) 事業仕分け結果報告について
 - (7) 各図書館からの近況報告について
 - (8) その他
 - (6) 公開・非公開の別：公開
 - (7) 該当なし
 - (8) 傍聴人の数：2人
 - (9) 審議内容
 - 1) ブックスタート事業について
 - *事務局よりアンケートの結果について報告
 - ブックスタートについては、毎月7ヶ月健診と12ヶ月健診にてアンケートを取っているが、すでに見直しを行っているため、今年度アンケートを実施し、その結果を受けて、来年度から再度検討していく。
- 委員：アンケートの回収率はどれくらいか。
事務局：ほぼ100%。

- 委員：自由に意見等を記入してもらう項目にたくさんの意見があって嬉しい。
記入してくれたほとんどの方が、ブックスタート事業に対して肯定的な意見が多く、これらの意見を基に、図書館利用につなげていく方向で考えていけたらよい。
- 委員：意見の中に「シリーズの本」とあるが、どんな本か。
- 事務局：「バムとケロ」シリーズ。
- 委員：学校図書館の利用時間はいつが多いのか。放課後児童クラブがあると利用できないのではないか。
- 事務局：学校図書館司書が欠席なので、正確にはわからないが、業間休みやお昼休みが多いと聞いている。
- 委員：授業内で図書館を利用することもあるようなので、短い時間でも図書館を利用することが多い。
- 委員：このアンケート結果を見るまでは、サードブックについては、あまり重要視していなかったが、このアンケート結果からサードブックの重要性を実感した。このサードブックをきっかけに、本への親しみを持つきっかけづくりができるのだと思った。
- 委員：「絵本は高価な物なのでプレゼントしてもらうのはありがたい」「公費が子供たちへの還元されるのはよい」という意見があるが、経済的な面で本を手にできない人もいて、そういった面での支援もできているので、サードブックは必要だと思う。
- 教育長：アンケートを取り、自分たちの実施してきた事業を見直すことはよいこと。読書のきっかけ、図書館利用の増加、親子のつながりをつくりたい、ということでこの事業を実施していると思うが、アンケート結果を受け、配布方法等を検討し実施していくことで、さらにブックスタート事業の意義を達成して行ってほしい。
学校図書館との連携は大事なので、図書館システムの連携も踏まえた中で実施方法等を検討して行ってほしい。
- 委員：リストに載っている本は図書館にあるのか。
- 事務局：すべて図書館に所蔵している。
- 委員：そういったこともPRしていくとよい。

2) 北杜市図書館開館時間等について

*事務局より資料についての説明

明野図書館・むかわ図書館について、開館時間が短いという意見が多く、案として、午後6時までの開館とする。

2 交代制の図書館を1直制に、金田一春彦記念図書館の年末年始の開館を休館に

することで、経費削減になる。

委員：職員数が少ない図書館は、1人勤務があるのか。

むかわ図：午前中、1人勤務になることもある。

委員：1人勤務は精神的にも大変なので、精神的な苦痛も考慮してほしい。

事務局：市の予算が削減されている中で、図書館も他部署同様、節約等している。事業も工夫して運営していくが、全体予算を削減するためには、人件費の削減も考えていかななくてはならない。これについては、運営会議で検討していく。

委員：この問題については、事業仕分けにも関わるので、平成27年度に向け、引き続き考えていく。開館時間について、各館の状況はどうか。

明野図：図書館の開館時間は午後5時、児童館は午後6時までだが、午後5時以降来館する人が多く、現状と合っていないので、午後6時までの開館でよい。朝から総合会館は開館しており、開館すれば図書館開館時間前でも利用者は入ってくる。

委員：総合会館の開館時間は何時か。

明野図：午前8時30分開館、部屋の使用は午前9時から。現在も、図書館の開館時間前でも、本を見る程度の対応はしているので、午前10時開館となっても支障はない。

すたま図：複合施設だが、図書館のみに鍵がかけられるので、開館時間が変更になっても支障はない。

開館までに館内清掃や新聞をチェックしているので、30分での準備は厳しい。

夏休みは早くから利用者が来るので、午前10時の開館は考えたい。

たかね図：浅川伯教・巧兄弟資料館が併設されていて、区切ることができないので資料館とのすり合わせを考えなくてはならない。

開館までに時間がないが、館内清掃はできることだけするなどして対応していく。

現在、開館直後は借りる人より新聞を閲覧している人が多いので、開館時間が午前10時になっても支障はない。

ながさか図：コミュニティとの区切りがないので、開館時間の変更についてはコミュニティとのすり合わせが必要。平日は一般の利用者が多いので開館時間が変更になっても支障はないが、土日は学生が多いので考えなくてはならない。

職員体制だが、コミュニティ1名、図書館1名という場合があるので検討が必要。

金田一図：夏休みは午前9時30分開館でも子どもが並んで待っているので、午前

10時開館は厳しい。

プールもあるので、午前9時30分～午前10時の利用は多い。

年末年始を他の図書館同様、休館とするという「案」の体制は、金田一春彦記念図書館としてはよい。

小淵沢図：併設の生涯学習センターが午前8時30分開館、午前9時から使用可能となっている。

夏休みは開館時間前から子どもが待っている状況なので、午前10時開館は弊害があると思う。

平成27年度から、生涯学習センターが新しくなるので、図書館の開館時間より早く来た人の対応をどうするか、考えなくてはならない。

はくしゅう：併設施設だが、区切られているので対応は可能。図書館の外に、テーブルや椅子があるので、開館まで待つことは可能。

午前10時開館でも支障はない。夏休みは、子どもが学習室を利用することが多い。

むかわ図：午後6時閉館はよい。ラウンジに雑誌が置いてあり、時間まで待ってもらえるので、午前10時開館でも問題はない。

会議室を学習室として利用させてもらっているので、図書館開館前に利用可能であれば、問題はない。

4月より新しい図書館になり、今までの3倍の利用があるので、職員体制等を考えながら勤務している。

委員：夏休みの利用時間や併設施設との兼ね合いが必要。

委員：午前10時開館は運営会議で話し合ったのか。

事務局：今回提出したのは、あくまでも案であり、今後、委員の方々等の意見を聞きながら、平成27年4月の実施に向けて決定していきたい。

開館時間については、運営会議で話し合っている。複合施設とのすり合わせも行っていく。

委員：複合施設に合わせるのではなく、図書館としての機能を考えて検討する必要がある。

事務局：今後も検討の場を設けていきたい。

委員：予算削減の話が多く、予算削減ということで開館時間の検討という話もでてくると思うが、夏休みに子どもたちのための特別開館といったものを設けてもよいと思う。予算がないから、そういった時間が取れないということになるのかもしれないが、もしそういった部分でボランティアに協力してもらおう、といった考えはあるのか。それが可能であれば、もう少し開館時間を早めることもできるのではないか。利用者を増やしたい一方で、開館時間を減らしている感じがするが、それでも対応できる職員を配置し

てほしい。

事務局：事業仕分けでも回答しているが、子どもの居場所として図書館を機能させていくといった考えもあるので、今後検討していきたい。

3) 利用者懇談会について

*事務局より説明

近年の利用者懇談会は、参加者数が少なく、利用者懇談会として不十分だったことから、できるだけ多くの方に参加していただくため、今年度は講演会を開催し、その後に利用者懇談会を開催してはどうかと考えている。

内容としては、講演会1時間30分、その後利用者懇談会1時間程度の予定。

講演会の案として、住民参加型の図書館運営をしている長野県の小布施町立まちとしょテラソの前館長である花井裕一郎氏を招きたいと思っている。

花井氏に打診したところ、平成26年3月1日(土)が良いとの回答があったので、3月1日に開催したい。

今年度、この方法で実施し、反響がよければ来年度以降もこのような形式で実施していきたい。

委員：どれくらいの参加者を想定しているのか。

事務局：講演会には多くの方に参加していただきたいが、利用者懇談会についてはあまり人数が多くなるとなかなか意見が出にくいので、50名前後を予定している。

4) 「やまね便り」について

*事務局より説明

字が小さくて読みづらいという意見があったので、少し字を大きくした。

3pの「とびだせ!としょかんボランティア」の紹介で、「おとなのための朗読会」は「おとな」を漢字に変更。→「大人のための朗読会」

委員：字が大きくなって見やすくなった。

5) 平成26年度当初予算について

*事務局より説明

ブックスタート事業のアンケート結果を受け、予算を作成していくので、今回の図書館協議会での報告となった。

平成24年度から平成25年度は、5.5%の予算削減だったが、平成26年度は平成25年度の4~5%の予算減額が必要になると思われる。

事業仕分けにて、「複合施設の中の図書館というのは理解できるが、利用者が少なく、コストに見合っていないのでは」との指摘があった。図書館としては、各館の特色あるイベントを実施して利用者を増やしていきたいと考えている。そのために、平成26年度は図書館企画事業費を増額する予定。

委員：企画事業費の増額の内容はどんなものか。

事務局：今後、運営会議で決定していく。

委員：事業は、各館の特色を生かしたイベントを考えているのか。

事務局：各館の特色を生かしたイベントが基本だが、それ以外にも考えていく。

6) 事業仕分け結果報告について

* 事務局より説明

判定結果は、総合的に「北杜市が改善のうえ実施」となった。

仕分け人等の意見についての図書館の考えは以下のとおり。

※項目は資料の数字と対応

①各図書館の特色を生かしながら利用者を増やしていくべき、効果が上がらないようであれば、統合、縮減策に進むべき。

【図書館としての対応】

・運営協議会で検討していく。

③成果目標を具体的（開館日数、利用者数、貸出し書籍数、事業実施回数等）に検討し、活動した方がよいと思う。

【図書館としての対応】

・平成27年度に向けて検討していく。

⑤開館時間の統一

【図書館としての対応】

・平成27年度に向けて検討していく。

⑥図書館の目的は、本の貸出しや勉強をする場所。高齢者の交流とは別。図書館の機能としての役割と分けてもらいたい。

【図書館の対応】

・役割の部分として、今までもボランティアに読み聞かせや朗読会、イベント等で協力してもらっている中で、交流という面を担ってもらっているが、今後はそれをもっと前面にPRしていきたい。

⑦魅力ある事業の検討。統廃合の検討。利用者が減少する中でなぜ人件費が減らないのか。人員の削減を検討。

【図書館としての対応】

・特色を生かしたイベントを開催し、利用者数を増やす。

⑧図書館を利用していない人の声を聴く機会をつくったらどうか。市民のニーズの調査を広く行い検討していくべき。

【図書館としての対応】

・市民の登録率が45%ということで、登録率を上げる努力をしていかななくてはならない。HP上でのアンケート等で未利用者への声を収集する機会をもちたい。

⑨8館はコストがかかり過ぎる。図書館が遠くなることは、利用者にとって困ることにはなると思うが、利用したい人は遠くても行くと思う。利用者を増やすこと、コスト削減に努力は必要。

【図書館としての対応】

・コスト削減に努める。

⑩利用者の少ない図書館は、廃止して移動図書館等を設置したらどうか。集中して住民には、電子書籍を利用できる環境を整えたらどうか。図書館を別目的として利用するのは賛成。

【図書館としての対応】

・25年度に学校図書館と公共図書館のネットワークシステムが完成するが、これには費用が多くかかっているので、電子書籍については検討してくが、環境を整えるには費用的に厳しい。

委員：仕分け人や市民判定人の意見は、図書館の事情を知らないで、言いたい事を言っているだけなので、素直に受け止められないところもある。

事務局：見直しはしていかななくてはならないので、意見も踏まえつつ、改善していく。

委員：仕分け人の意見で、利用者が少ないから図書館がなくてもよい、という考えはおかしい。市長も文化的なものを尊重しようという方針を打ち出しているのだから、この判定を参考にしながら改善していくべき。

委員：「今後の北杜市立図書館のあり方」を踏まえていたら、このような意見はでないはず。

委員：北杜市図書館適正配置等検討委員会での検討結果を受け、教育委員会で「今後の北杜市立図書館のあり方」を作成し、8館残すことになったという経緯を知らないゆえの仕分け結果のように思う。

委員：遠くても利用したい人は利用するという意見があったが、やはり足は遠のくと思う。現状のまま続けていくのは難しいかもしれないが、長い時間をかけて利用者の意見を聞きながら検討していくべき。

委員：遠くなると車を使うことになるが、CO₂削減という時代であるのに、こ

のように考えるのは仕分け人としてどうなのかと思う。

委員：今までの図書館ではなく、今後の図書館のあり方をPRしていく必要がある。

事務局：仕分け人には細かい資料が配布されているが、市民判定人にはその資料が配布されていないので、図書館側の説明も十分理解してもらえなかったのかもしれない。

委員：図書館協議会や適正配置等検討委員会を無視しているような結果である。

委員：市民判定人に資料は届いていないのか。

事務局：基本的な資料は配布されているが、事前に要求された質問内容等の細かい資料は配布されていない。

委員：仕分け人等の意見は、館長がまとめたものか。

事務局：事業仕分け評価シートに書かれた意見。

委員：事業仕分けの内容はとても重要なことで、予算にも関係してくることなので、平成27年度に向けて引き続き考えていくべきこと。

7) 各図書館からの近況報告について

*各館より事業報告・事業計画等を別紙にて報告。

<補足>

●明野図書館

- ・イベント関連の本を展示したことで、利用者数が増加した。
- ・明野ファンクラブや地域委員会の協力があって助かっている。

●たかね図書館

- ・絵本セラピー講座が大変好評だったので、1月にも開催。
- ・ハロウィンパーティは保育園のイベントと重なってしまったので、参加者が少なく残念だった。

●小淵沢図書館

- ・12月18日の講演会は北部教育センターと共催。
- ・子育て支援センターへ読み聞かせに行っているが、参加してる親御さんを図書館に引き込むところまでいっていないので、絵本パックを作ってそれを貸し出す、といった試みを考えている。

●ライブラリーはくしゅう

- ・図書館のイベントが他のイベントと重なってしまったので、開催日には注意が必要だと思った。
- ・わくわく教室や小学校へのお出張おはなし会を実施。

●むかわ図書館

- ・むかわ図書館活性化会議が実施していて大好評だった節分まつりは、甲斐駒セン

ターセせらぎの施設の問題で、中止になった。